

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	音楽基礎 4	
科目基礎情報							
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	ヴォーカリストコース			開設期	後期
対象年次	2 年次	科目区分	選択			時間数	60時間
単位数	4 単位	授業形態	講義				
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。						
担当教員情報							
担当教員	三宅・山路・澤田			実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン		
学習目的							
音楽理論の知識を深めることは、ヴォーカリストとしての幅を広げることにもなる。音楽基礎 3 の学習内容を発展させ、広範で高い水準の音楽的基礎能力を習得する。実習では、主に卒業公演にむけての課題曲の譜読みを行う。講義では、音楽の基礎能力とされる「音感」「リズム感」「和声感」「読譜力」の育成を目指し、より良い音楽を創り上げるための基礎を学ぶ。講義では今後の音楽活動を更に発展させていくために、マイナーkey（平行調）の概念、メジャーkeyのダイアトニックコードの概念、和音の機能（T,SD,Dと代理コード）、転調と移調に関してピアノを弾きながら、歌いながら学び、歌う時・演奏する時・オリジナル楽曲を作る時に活かす。							
到達目標							
本科目はグレード対応科目となっており、2 年次前期はグレード 1 6～2 0 に準拠して授業が進行する。1 年次と 2 年次前期に学んだ音楽基礎に加えて、後期ではコードを中心に理解と習得を目指す。転回型と分数コード、セカンダリードミナント、テンションを含むコード、ダイアトニックコードを理解して、コードを自在に扱えるようにする。コードの聴き分けができるようになり、音符やコードネームを楽譜に書ける事と歌・演奏・作曲・編曲に活かす事を到達目標としている。							
教育方法等							
授業概要	音楽の創作・演奏活動をしていく上で基礎的な音楽理論を集団講義形式で行う。実習はクラス分けを行い基礎コースと応用コースの 2 つのグルーブレッスン形式で進行する。音楽理論を頭で覚えるだけではなく、学んだことをピアノを弾けるように、歌えるように、楽譜を書けるようにして、体感する。また、ジャンルを問わず過去の名曲を鑑賞して、音楽理論のどの部分が活用されているかを考え検証する。上級者も中級者も常に向上心を持って知識を深め、自身の歌・演奏・オリジナル作品に活かす事、表現の幅を広げる事を目指す。						
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の 4 分の 3 以上出席しない者は定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する				
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	実技	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	成果発表	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する				
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1 回～1 5 回）							
回	授業内容		各回の到達目標				
1 回	転回系と分数コード (1)		グレード 1 6 対応。転回型のコードがわかる。				
2 回	転回系と分数コード (2)		グレード 1 6 対応。分数コードがわかる。				
3 回	転回系と分数コード (3)		グレード 1 6 対応。転回型と分数コードを使うことができる。				
4 回	セカンダリードミナント (1)		グレード 1 7 対応。セカンダリードミナントがわかる。				
5 回	セカンダリードミナント (2)		グレード 1 7 対応。セカンダリードミナントがわかる。				
6 回	セカンダリードミナント (3)		グレード 1 7 対応。セカンダリードミナントを使うことができる。				
7 回	テンションを含むコード (1)		グレード 1 8 対応。テンションコードがわかる。				
8 回	テンションを含むコード (2)		グレード 1 8 対応。テンションコードがわかる。				
9 回	テンションを含むコード (3)		グレード 1 8 対応。テンションコードを使うことができる。				
1 0 回	マイナーkeyのダイアトニックコード (1)		グレード 1 9 対応。マイナーkeyのダイアトニックコードがわかる。				
1 1 回	マイナーkeyのダイアトニックコード (2)		グレード 1 9 対応。マイナーkeyのダイアトニックコードのディグリー表記がわかる。				
1 2 回	マイナーkeyのダイアトニックコード (3)		グレード 1 9 対応。マイナーkeyのダイアトニックコードを使うことができる。				
1 3 回	ハーモニーの採譜 (1)		グレード 2 0 対応。テンションを含むコードを聴き取り、楽譜に書くことができる。（メジャーkey）				
1 4 回	ハーモニーの採譜 (2)		グレード 2 0 対応。テンションを含むコードを聴き取り、楽譜に書くことができる。（マイナーkey）				
1 5 回	まとめ		全体のまとめ				

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	音楽基礎 4	
科目基礎情報							
開設学科	ミュージックアーティスト科		コース名	サウンドクリエイターコース		開設期	後期
対象年次	2 年次		科目区分	選択		時間数	60時間
単位数	4 単位		授業形態	講義			
教科書/教材	「音楽基礎」教科書 適宜レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。						
担当教員情報							
担当教員	樗木・大野			実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン		
学習目的							
劇判音楽やゲーム音楽の制作に携わるためには、管弦楽編成での作曲知識と技術を持つことが必須である。管弦楽編成で使用される各楽器の奏法や音域を理解し、独奏曲から管弦楽曲までの幅広い編成選択ができるようになる。また、楽譜は、音楽の形態が多様化する現在でも音楽家同士のコミュニケーションツールとして必要不可欠である。管弦楽の記譜法を理解し、その手法を身に着ける。基礎的な音楽理論を身に着け、楽曲において管弦楽がどのような効果を発揮するかを意識し自らの楽曲制作において実践することができるようになることが目的である。							
到達目標							
管弦楽曲の作・編曲をできることを目標とする。また管弦楽曲の自筆譜作成や管弦楽作品の分析能力が身につく。その過程である編曲法を通して弦楽合奏、木管合奏、金管合奏などの室内楽曲の作・編曲法を理解し、楽器法を通して独奏曲から管弦楽曲の作・編曲ができるサウンドクリエイターとなることを到達目標にしている。また本科目はグレード対応科目となっており、音楽理論グレード1 6～2 0に準拠して授業が進行する。学生が西洋音楽の要となるメジャー・マイナー調性と和声の仕組みを把握し、必要な場面で活用することができる。音楽の三要素であるリズム・コード・メロディの持つ意味を把握し、楽器演奏、作曲技術など自己の専門技術に活かすことができる。							
授業概要	講義と共に個人ワークや、課題のプレゼンテーションも行う。他人の手法を理解し、どのように自分に還元できるかを意識する。各楽器を理解し、自身の作品の中で自在に使用し、理論的に色彩的に自身の作品で構築できる。また音楽理論を一面性の学問として捉えるだけでなく、物理学、心理学、人間の耳の特性等を踏まえて多角的に理解する。その上で音楽家同士のコミュニケーションツールとしての理論、調性、和声の機能を1年時の復習を交え、練習問題を多く取り入れて進行していく。黒板へ板書及び適宜資料を配布する。						
注意点	学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や授業態度などには厳しく対応する。理由のない欠席や遅刻は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。授業で得る情報が今後の創作活動に深く関わることを意識し、必要になる情報について考えること。ただし、授業の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する				
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する				
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1 回～1 5 回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1 回	和声法			管弦楽の音の配置を理解する。グレード10～14の復習			
2 回	対位法			管弦楽の主旋律と対旋律の関係を理解する。グレード10～14の復習			
3 回	旋律学習(1)			管弦楽の旋律の作曲方法を分析し理解する。グレード16対応。転回型の響きの違いを理解できる。			
4 回	旋律学習(2)			管弦楽の旋律の作曲をする。グレード16対応。転回型を理解できる			
5 回	和声学習(1)			管弦楽の和声の作曲方法を分析し理解する。グレード16対応。分数コードの記譜ルールと仕組み			
6 回	和声学習(2)			管弦楽曲に和声を付けて、曲を書く。グレード16対応。分数コードの響きの理解と応用			
7 回	リズム学習(1)			管弦楽のリズム隊の作り方分析。グレード17対応。セカンダリードミナントの概念			
8 回	リズム学習(2)			管弦楽曲にリズム体を付けて、曲を書く。グレード17対応。セカンダリードミナントの理解			
9 回	管弦楽補足学習(1)			打楽器を使用した装飾方法を理解する。グレード18対応。テンションコードの仕組み			
1 0 回	管弦楽補足学習(2)			鍵盤楽器等での装飾方法。 グレード18対応。ナチュラルテンションとオルタードテンション			
1 1 回	管弦楽曲鑑賞(1)			2管編成の管弦楽曲を鑑賞、用法理解。グレード19対応。マイナーキーのダイアトニックコード			
1 2 回	管弦楽曲鑑賞(2)			3管編成の管弦楽曲を鑑賞、用法理解。グレード19対応。マイナーキーのダイアトニックコード			
1 3 回	まとめ(1)			まとめ、曲として完成。グレード20対応。採譜方法を学び、効果的なコード進行を耳で判断			
1 4 回	まとめ(2)			まとめ、曲として完成。グレード20対応。ハーモニー採譜が出来るようになる。			
1 5 回	まとめ(3)			全体のまとめ			

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	音楽基礎 4	
科目基礎情報							
開設学科	ミュージックアーティスト科		コース名	プレイヤーコース		開設期	後期
対象年次	2 年次		科目区分	選択		時間数	60時間
単位数	4 単位		授業形態	講義			
教科書/教材	「音楽基礎」						
担当教員情報							
担当教員	大野元毅・前田			実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン		
学習目的							
学生が音楽を学ぶ際、また実務に携わる際に必須となる音楽理論を学ぶ。音楽の形態が多様化する現在においても楽譜での伝達は不変であり、楽器や作曲技術を習得する際に必要不可欠なものである。また実務上においてもスムーズな楽譜上での意思の疎通が正しく行われないと業務に支障をきたすことになる。音楽の三要素の一つであるメロディを表現するためには様々なスケールの用法を知らなければならない。またスケールはコードとの密接な関係があり、調性やテンションを理解せずにスケールを使いこなすことは出来ない。スケール＝メロディを演奏する際には表現も共に学ぶ必要がある。学生が普段演奏される機会の多い楽曲を通してスケールを実際に演奏することで実践的にスケールを使用することができるようになることを目的とする。							
到達目標							
講義ではグレード対応科目となっており、音楽理論グレード1 5～2 0に準拠して授業が進行する。転回系による響きの違いを耳で聞き取れるようになることで、アレンジや演奏において効果的なアプローチを取ることが出来る。学生が比較的高度なコードや転調について深く理解し、多彩な音楽表現ができるようになる。テンションコードの仕組みと響きを理解し、適宜使用することが出来る。実技では名曲を通してスケールを学ぶことで、様々なジャンルの音楽に触れ、優れたメロディラインを適切な表現で演奏出来るようになる。様々なスケールをギター及びベース上で適切なポジションで演奏できるようになる。転調や借用和音を含む楽曲上でメロディを展開できるようになる。コード、メロディとテンション、音価の関係を把握し、演奏できるようになる。							
教育方法等							
授業概要	音楽理論を一面性の学問として捉えるだけでなく、物理学、心理学、人間の耳の特性等を踏まえて多角的に理解しながら授業を進行する。前期から更に一歩進んだコード・スケール理論を理解し、多様な音楽表現ができるように、実際の使用例と応用問題を多く取り入れながら進行していく。						
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験	35%	試験と課題を総合的に評価する				
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	提出物	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	成果発表 (口頭・実技)	25%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する				
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1 回～1 5 回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1 回	前期の音楽理論の復習(1)			グレード11～12の習得を自己確認できる。課題曲「Led Boots」が演奏できる。			
2 回	前期の音楽理論の復習(2)			グレード13～14の習得を自己確認できる。課題曲「Led Boots」が演奏できる。			
3 回	転回型と分数コード(1)			グレード16対応。転回型の響きの違いが区別できる。課題曲「So What」が演奏できる。			
4 回	転回型と分数コード(2)			グレード16対応。転回型の選択ができる。課題曲「So What」が演奏できる。			
5 回	転回型と分数コード(3)			グレード16対応。分数コードの仕組みがわかる。課題曲「Europa」が演奏できる。			
6 回	転回型と分数コード(4)			グレード16対応。分数コードを楽曲に応用できる。課題曲「Europa」が演奏できる。			
7 回	セカンダリードミナント(1)			グレード17対応。セカンダリードミナントの概念がわかる。課題曲「Spain」が演奏できる。			
8 回	セカンダリードミナント(2)			グレード17対応。セカンダリードミナントを使用できる。課題曲「Spain」が演奏できる。			
9 回	テンションコード(1)			グレード18対応。テンションコードがわかる。課題曲「Armando's Rhumba」が演奏できる。			
1 0 回	テンションコード(2)			グレード18対応。テンションの種別がわかる。課題曲「Armando's Rhumba」が演奏できる。			
1 1 回	マイナーキーのダイアトニック(1)			グレード19対応。マイナーダイアトニックコードがわかる。課題曲「Tristeza」が演奏できる。			
1 2 回	マイナーキーのダイアトニック(2)			グレード19対応。マイナーダイアトニックコードが分析できる。課題曲「Tristeza」が演奏できる。			
1 3 回	ハーモニー採譜(1)			グレード20対応。採譜の方法を学び耳で判断できる。課題曲「Misty」が演奏できる。			
1 4 回	ハーモニー採譜(2)			グレード20対応。ハーモニー採譜が出来るようになる。課題曲「Misty」が演奏できる。			
1 5 回	まとめ			全体のまとめ			